

令和 7 年 度

運 営 に 関 す る 計 画



大阪市立北鶴橋小学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

学校目標「心ゆたかな子ども～よく考える子 助け合う子 進んでやる子～」

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

令和6年度学校アンケートにおいて、肯定的回答が、「学校は楽しい」93%、「友だちのよいところがわかりますか」97%、「学校のきまりを守れていますか」90%であった。

令和6年度小学校学力経年調査児童質問紙において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答は90%であった。

不登校児童の年度末の校内調査においての割合は0%であったが、欠席日数が多い児童もいる。今後も月1回の生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会をもとに「予防的生活指導」を行い、全教職員で児童を見取り、児童が話しやすい環境づくりに努めていく。

教職員と児童の信頼関係を積み重ね、常に学校全体でチームとして対応していくことを通して、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.1%以上にしていく。

不登校についても不登校対策委員会での教職員の共通理解や、家庭との連携を深め、不登校児童率が前年度水準になるようにしていく。区役所、子ども相談センター等、外部機関との連携も積極的に行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度の大阪市学力経年調査の国語科での標準化得点は、学校全体では100以上を達成することができた。しかし、5年生に関しては指標を若干下回る結果になった。

令和6年度学校アンケートにおいて肯定的回答が、「学校の勉強はよくわかりますか」98%、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、47.8%であった。

令和6年度の大阪市学力経年調査の国語科では、「話すこと・聞くこと」が課題となった。そのため、授業力向上に向けた研究や、週に2回北鶴タイムでの継続した「聞き取り」「読み取り」の基礎学力の向上に取り組むことで、小学校学力経年調査における、国語の平均正答率について、前年度の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度の平均を前年度以上にしていく。(令和6年度 4年 1.19%、5年 1.05%、6年 0.96%)以上にする。

令和7年度の大阪市学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を(令和6年度 47.8%)前年度以上にする。そのため、主体的・対話的で深い学びの授業や、協働的な学びの場を設け、学校全体で授業改善を行う。

### 【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末の使用は、朝の「心の天気」の入力から協働学習ツール、デジタルドリル、学習アプリなど、さまざまな場面で活用し、使用機会が増えている。「心の天気」に関しては 1 年生から入力する習慣が身に付いている。このことから学習者用端末を日常的に使用することができている。

令和 7 年度は、授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、前年度以上にしたい。(令和6年度 89.3%)

本校において、校務支援システムを活用した校務のデジタル化が進み、教員の長時間勤務は大阪市平均と比較すると大幅に下回っている。令和6年度、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は 100%を達成した。

令和7年度も引き続き、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を 100%にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

学校アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」の最も肯定的な回答を 90.1%以上にする。

年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 0 %とする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、「4年 1.20%、5年 1.06%、6年 0.97%」以上にする。

小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 48%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の 90%以上にする。

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を100%にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

(様式例 2)

大阪市立北鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b> <b>年度目標</b> ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を【令和 6 年度 79.5%】80%以上にする。 ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率 0%を維持する。【令和 6 年度 0%】	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 「いじめはどんな理由があってもいけないことである」ことを理解し、一人一人を大切にすることを心がける。	
指標 学校アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」の最も肯定的な回答を 90.1%以上にする。（令和 6 年度 90%）	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 毎月、不登校児童について共通理解する場を設定し、全教員で対策を講ずる。	
指標 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 0%とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式例 2)

大阪市立北鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>年度目標</b> ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も【令和6年度 4年 1.19%、5年 1.05%、6年 0.96%】前年度以上にする。 ② 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を【令和6年度 47.8%】前年度以上にする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語科を中心に基礎学力の定着を図り、教職員が連携して、一人一人の学力を向上させる。 ----- 指標 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、「4年 1.20%、5年 1.06%、6年 0.97%」以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「確かな読みの育成」の授業の実現に向けた授業改善を図る。 ----- 指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 48%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式例 2)

大阪市立北鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>年度目標</b> ① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の【令和 6 年度 89.3%】前年度以上にする。 ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を【令和 6 年度 100%】前年度水準にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーションの推進) 心の天気の入力、デジタルドリルや SkyMenu 等を朝学習や学習活動で使用する。	
指標 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の90%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり] ゆとりの日の定時退勤、退勤目標時間の設定、業務の分担や業務の精選の工夫をし、ワークライフバランスの保たれた組織づくりを行う。	
指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を100%にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

